

請願書

件名

すべての原発の速やかな停止と廃炉、原発輸出をやめ再生可能エネルギーへの転換を求める意見書を国に提出することを求める請願

要旨

貴議会が12月議会において「東海第二原子力発電所の運転期間延長を行わないよう意見提出を求める請願」を採択されたことは、「原発ゼロ」を願う私たちに大きな希望となりました。

国は今だ「ベースロード電源」として原発を位置付けていますが、年頭の経団連中西会長も「国民の多数の同意のない原発事業の推進はもう限界であり見直す必要がある」と話しました。現在、海外への原発輸出は相次いで破綻しています。海外では再生可能エネルギーへの転換が主流となっています。

福島原発事故の大きな教訓は「人類と原発は共存できない」ということでした。原発事故は広範囲に長時間にわたり深刻な被害をもたらし続けています。再稼働は、処理できない廃棄物を生み出し続けることは明らかです。それなのに、九州電力では原発電力を優先し再生可能エネルギーを制限さえしています。

福島の事故後には、節電、節電と言っていたのに、今は逆にイルミネーションを競い合うアトラクションなど使いたい放題です。それでも電気は十分足りています。

太陽光・熱、バイオマス、地熱、風力、水力、水素発電等々再生可能エネルギーは、原発よりコストもかからず、安全性はより上です。今こそ、脱原発を決断し、安くて安全な再生可能エネルギーへ転換すべき時だと思います。

以上の状況をふまえて、貴議会において、国に対して全ての原発の速やかな停止と廃炉や原発輸出をやめ再生可能エネルギーへの転換を求める意見書を提出することを求めます。

平成31年2月13日

請願者 あさか原発ゼロの会

朝霞市宮戸4-11-48

代表 関谷 麻智子

朝霞市議会議長 野本 一幸 様